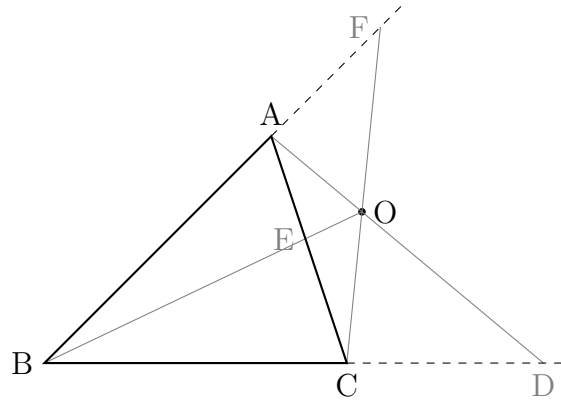
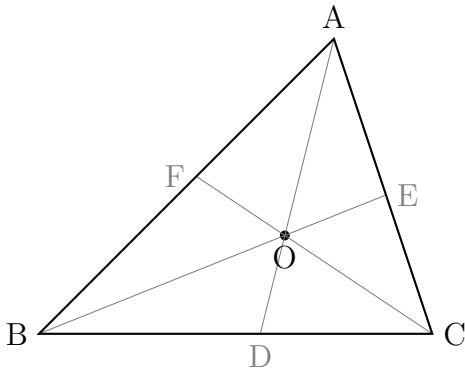




## チェバの定理とその逆

定理 (チェバの定理).  $\triangle ABC$  と各边上またはその延長線上にない点  $O$  に対して, 各頂点  $A, B, C$  から点  $O$  に引いた直線と, それぞれの対辺 (またはその延長線) との交点を  $D, E, F$  とするとき, 次が成り立つ.

$$\frac{AF}{FB} \cdot \frac{BD}{DC} \cdot \frac{CE}{EA} = 1$$



注意. 上の定理において, 左側の図は点  $O$  が  $\triangle ABC$  の内部にある場合であり, 右側の図は点  $O$  が  $\triangle ABC$  の外部にある場合である. チェバの定理は, このどちらの場合に対しても成り立つ.

証明. 以下では,  $\triangle ABC$  などの面積もまた  $\triangle ABC$  と書くことにする. 2点  $B, C$  から, 直線  $AO$  に下ろした垂線の足をそれぞれ  $P, Q$  とすると,

$$\triangle ABO : \triangle ACO = BP : CQ$$

が成り立つ. さらに,  $\triangle BPD$  と  $\triangle CQD$  は相似なので,

$$BP : CQ = BD : CD$$

が成り立つ. 以上から,

$$\triangle ABO : \triangle ACO = BD : CD \iff \frac{\triangle ABO}{\triangle ACO} = \frac{BD}{CD} \quad (1)$$

が成り立つ. 同様に考えて,

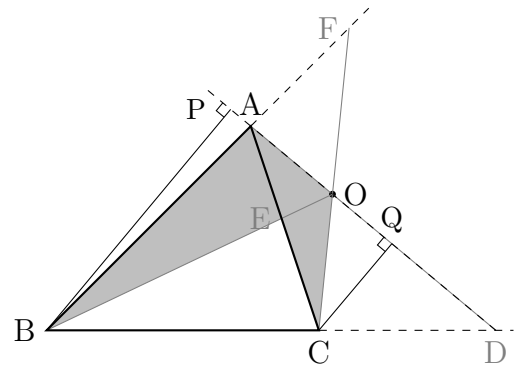
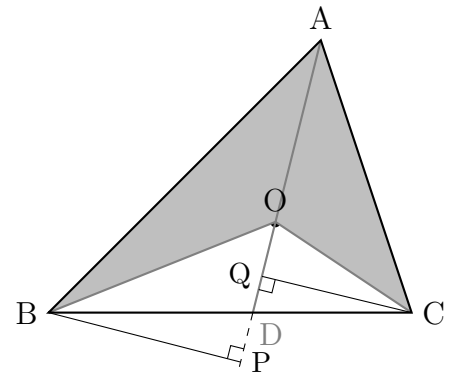
$$\frac{\triangle BCO}{\triangle BAO} = \frac{CE}{AE}, \quad (2)$$

$$\frac{\triangle CAO}{\triangle CBO} = \frac{AF}{BF} \quad (3)$$

も成り立つので, 等式 (1),(2),(3) の両辺を掛け合わせることで,

$$\frac{\triangle ABO}{\triangle ACO} \cdot \frac{\triangle BCO}{\triangle BAO} \cdot \frac{\triangle CAO}{\triangle CBO} = \frac{BD}{CD} \cdot \frac{CE}{AE} \cdot \frac{AF}{BF} \iff \frac{AF}{FB} \cdot \frac{BD}{DC} \cdot \frac{CE}{EA} = 1$$

が従う. □

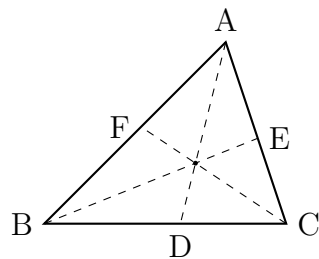


定理 (チェバの定理の逆).  $\triangle ABC$  において,

- 各頂点 A, B, C の対辺上にある点 D, E, F に対して,

$$\frac{AF}{FB} \cdot \frac{BD}{DC} \cdot \frac{CE}{EA} = 1$$

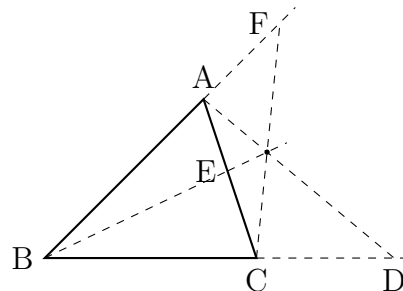
が成り立つならば, 3 直線 AD, BE, CF は 1 点で交わる. ただし, 点 D, E, F は頂点ではないとする.



- 各頂点 A, B, C の対辺または, その延長線上にある点 D, E, F のうち, 2 点が延長線上にあり, もう 1 点は辺上にあるとする. さらに, 3 直線 AD, BE, CF は, どの 2 直線も互いに平行でないとする. このとき,

$$\frac{AF}{FB} \cdot \frac{BD}{DC} \cdot \frac{CE}{EA} = 1$$

が成り立つならば, 3 直線 AD, BE, CF は 1 点で交わる. ただし, 点 D, E, F は頂点ではないとする.



注意. 上の定理の 2 つ目の主張の図について, これは, 2 点 D, F がそれぞれ, 辺 BC の延長線上の C 側, 辺 AB の延長線上の A 側にあり, 1 点 E が辺 CA 上にある場合の図である. 定理の仮定を満たす場合はこの他にも沢山あり, それぞれの図は一見異なるように見えるので, ここにあげた場合の図の形に囚われてないけない.

証明. 2 つの主張の証明は同じなので, まとめて証明する. 仮定から, 2 直線 AD, BE は平行でないで, その交点を O とする. 直線 CO と直線 AB との交点を F' とすると, チェバの定理より,

$$\frac{AF'}{F'B} \cdot \frac{BD}{DC} \cdot \frac{CE}{EA} = 1$$

が成り立つ. これと, 定理の仮定の等式を比較することで,

$$\frac{AF}{FB} = \frac{AF'}{F'B} \iff AF : FB = AF' : F'B$$

が成り立つ. 2 点 F, F' はどちらも直線 AB 上の点なので,  $F = F'$  が従う. □

.....

チェバの定理は, 三角形と点に関する定理であると言える. 点 O の位置により, 考える図形の形が変わるので, 図形の形に囚われすぎないように注意する. 例えば, 下に示すように,

頂点 → 交点 → 頂点 → 交点 → 頂点 → ...

と点をたどることにより, 定理の等式

$$\frac{\textcircled{1}}{\textcircled{2}} \cdot \frac{\textcircled{3}}{\textcircled{4}} \cdot \frac{\textcircled{5}}{\textcircled{6}} = 1 \iff \frac{AF}{FB} \cdot \frac{BD}{DC} \cdot \frac{CE}{EA} = 1$$

が得られることも知っておくと良い.

